

3年生 「Unit 8 What's this? これなあに？」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【児童が主体的に取り組むことができる場面設定】

児童が主体的にコミュニケーション活動に取り組んでいくために、「10月に校外学習で動物園に行く1年生に、英語を用いた動物クイズをだす」という場面を設定した。自分たちでクイズを出したり答えたりする活動に加えて、1年生にクイズを出題して楽しむという場を設定することで、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるようにした。1年生が楽しめるようなクイズを出すという単元のゴールを設定し、毎時間それを意識した振り返りの時間を設けることで児童が単元のゴールに向かって自己調整しやすい環境を整えていく。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【単元のゴールを意識したクイズのやり取りの積み重ね】

児童が、相手のことを考えて自分の思いや考えを表現できるようにするために、本校で設定した伝える・聞くときの「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」を意識できるように支援を行った。そして、児童同士でやり取りのよさを称賛し合う活動を取り入れていくことで、相手を意識したやり取りへの意欲を高めた。また、単元を通してクイズのやり取りを何度も繰り返し行い、相手の反応に応じてヒントの出し方を変えたり、今までに習得した表現やジェスチャーを加えて伝えたりできるよう指導した。

～学習のながれ～ ㊦ 1年生のために。 動物クイズを作って、クイズ大会をしよう。 1. 様々なクイズにチャレンジしよう。 2. 単元のゴールを考え、 3. 4. 5. 1年生とクイズ大会をしよう。	
---	--

「学習の流れ・ゴールを単元の間掲示した。」

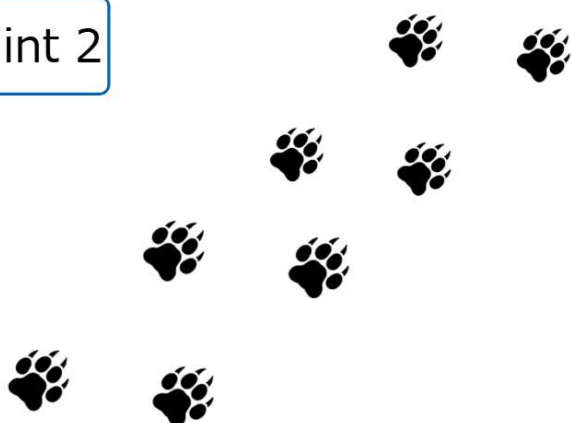
2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○「What's this?」「It's ○○.」を軸に、教師と児童、児童同士でのクイズをのやり取りを毎時間設定することで児童がやり取りに慣れ親しむことができた。また、単元のゴールとして「1年生が楽しめるクイズを作る」という場面設定としたことでより伝わりやすくするためにどのようなヒントを出せばよいかという内容だけでなく、ヒントの順番やジェスチャーなどを用いたヒントの出し方など、やり取りの仕方にも目を向けて活動に取り組む様子が見られた。

- 教師が足跡や、鳴き声のヒントを提示したり、画像やイラストなどの視覚的なヒントを出したりする際にも英語を用いた表現をすることで、児童がヒントを出す場面において英語表現を進んで活用する児童が見られた。
- デモンストレーションとして ALT に向けて児童がクイズを出す場面を設けたため、活動の見通しをもって、自信をもって活動に取り組む児童の様子が見られた。
- 「1年生にわかりやすい動物クイズを出す」という単元のゴールを設定してデザインしたことにより、児童が英単語よりもイラストなど英語表現を伴わないヒントを用いる場面が多くなってしまった。ジェスチャーや、英語表現を児童が既習の単語を用いて実践する機会を設けていく必要がある。

Hint 2



- クイズをタブレットで作成したことで、クイズを出し合う場面では、画面の操作に意識が向いてしまう児童が見られた。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

- 実際に 1 年生を想定して、クイズを出し合う活動では、お互いにクイズを出すだけではなく、「1年生が知っている動物を選んだほうがいいのでは?」「このヒントだと伝わらない」などと児童同士で相談をして、クイズを出す相手を想定して思考し、取り組む場面が見られた。
- 単元のゴールとして、「わかりやすく」という文言を児童に対し提供していたが、児童の中で「わかりやすい」を「簡単」と捉え、ヒント作りに注力しすぎる場面もあり、お互いにクイズを出し合う活動では表現の仕方に目が向かない場面も感じられた。
- 「What's this?」「It's ○○.」等のクイズの基本的なやり取りの流れに意識が向き、「4つの大切」を意識するまでに至らない児童が見られた。反応の仕方などのやり取りに慣れさせたり、自信をもって言語表現を使う場面を増やしていく必要があると感じた。